

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	11 05 07	中期総合計画主要施策番号	3-08	担当課	部・課	建設部河川課		
事業名	県単河川維持修繕事業(県単【河川】)			内線	3439			
				E-mail	kasen@pref.nagano.jp			
事業の概要等	事業の目的	県民の生命・財産を水害から守るため、河川管理施設の修繕及び河床堆積土砂の排除等を行い、現河川が有する機能を最大限発揮できる状態を確保する。また、堤防における草木の排除や天端の簡易舗装等により、河川環境の改善を図る。						
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 適時・適切な維持管理の実施及び良好な河川環境の維持は行われているものの、河川沿いの住民の安全・快適な生活と密接的な関係であるため、地域からの治水及び環境に対する要望は依然強い。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 平成18年7月の豪雨など災害を受けて、治水に対する要望は依然強く、さらに、良好な河川環境を整備維持する事業に対するニーズは一層高まっている。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 河川管理施設(堤防、護岸、水門)の修繕及び洪水流下の障害となっている河床の草木、堆積土砂の排除を実施し、現河川が有する機能及び河川環境を最大限発揮出来る状態を確保していく。						
		事業内容	・河川管理施設(堤防、護岸、水門)の小規模な修繕 ・堤防天端の簡易舗装、補修 ・洪水流下の障害となっている河床の草木、堆積土砂の排除 ・高水敷の整備					
		実施期間	M29 ~		根拠法令等	河川法第9条		
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価	
	地域住民の安全で豊かな生活を守るため、適時・適切な維持管理を実施し、良好な河川環境を維持する。		河川管理施設の修繕及び洪水流下の障害となっている河床の草木や堆積土砂の排除、高水敷の整備等を行い、河川機能・環境を維持する。		地域住民からの要望等を踏まえ、適時・適切な修繕・維持工事を行い、通常の出水対応ができた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)	千円	635,057	602,880	550,867	国庫・県単	県単	
	決算額 (B)	千円	635,137	569,880		実施方法	直接、委託	
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	591,137	569,880	414,867	歳出節別内訳等	予算現額(最終予算額+繰越額等) 602,880	
	概算人件費	従事する職員数	人	9.80	9.80	9.80	1箇所当たり平均工事期間 1年	
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	705,109	639,940	620,927	(単位: 千円)		
事業実績	内容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	県管理河川延長あたりの事業費	円/km	146,800	160,000	158,100			
						(県管理河川延長: L=4,802km)		
事業の課題	区分	判定・説明						
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・事業の対象となる河川は、河川法により県が維持管理を行うこととなっている。 ・効果の早期発現の為に重点的な事業費の投資やコスト削減等を促進し、事業の効率化を図ることに努めている。		
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括	全国第2位の長さを持つ県管理河川の維持管理を行政サイドのみで実施していくのは非常に困難であるため、河川愛護活動、アダプトプログラム、河川モニター等住民参加型の事業と協働し、効率的で適時・適切な維持管理を引き続き行っていく必要がある。							